

## 第2章

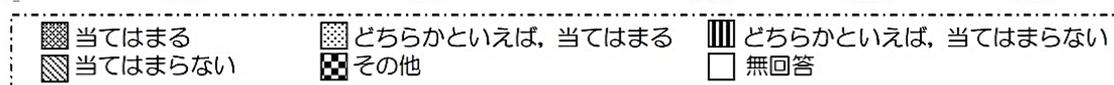
# 読書が子どもたちに 与える影響



## 1. 子どもの学力と読書の関連性

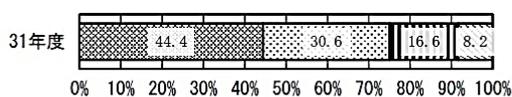
以下は「平成31年度全国学力・学習状況調査<sup>1</sup>」にて公表されている分析結果となっています。

### (1)「読書は好き」と答えた児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向

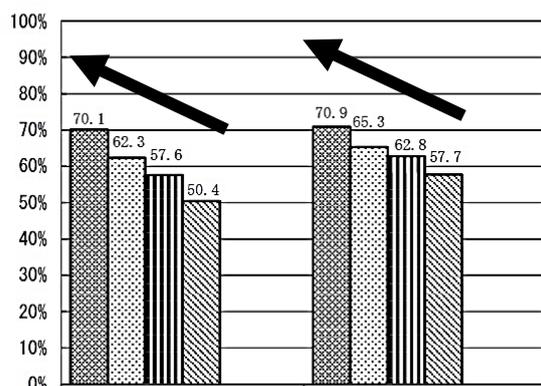
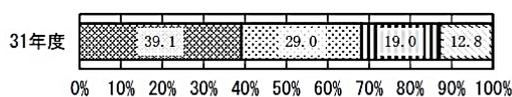


	質問番号	質問事項
小	21	読書は好きですか
中	21	

【小学校】

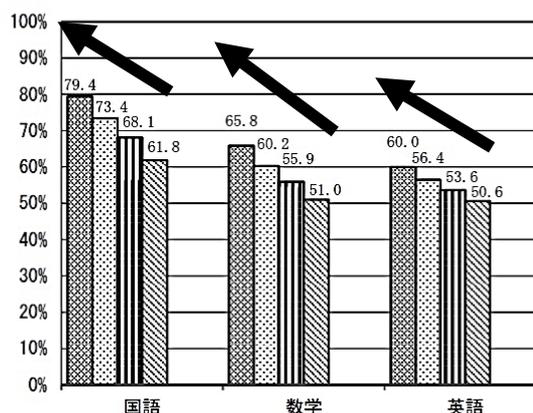


【中学校】



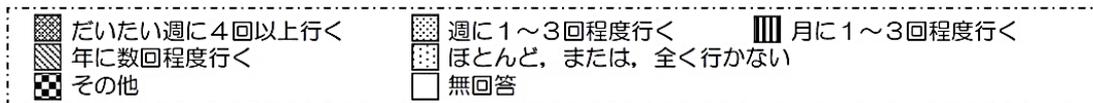
「読書は好き」と答えた児童の平均正答率

「どちらかといえば、好き」と答えた児童の平均正答率



<sup>1</sup> 詳細は以下の URL からご覧ください。(https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/report/question/)

(2)「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館に月1回以上行く」と答えた児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向

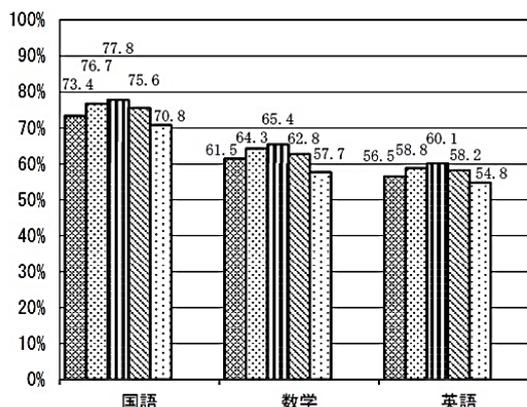
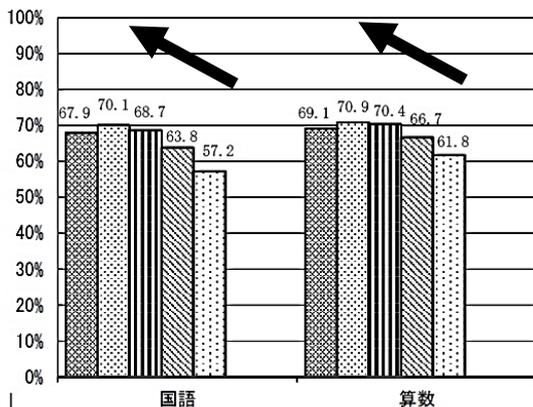
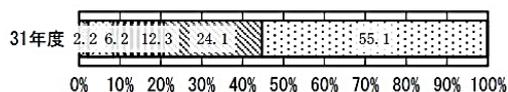


	質問番号	質問事項
小	20	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか
中	20	

【小学校】



【中学校】



「だいたい週に4回以上行く」と答えた児童の平均正答率

「週に1～3回程度行く」

「月に1～3回程度行く」

「年に数回程度行く」

「ほとんど、または、全く行かない」

「だいたい週に4回以上行く」と答えた児童の平均正答率

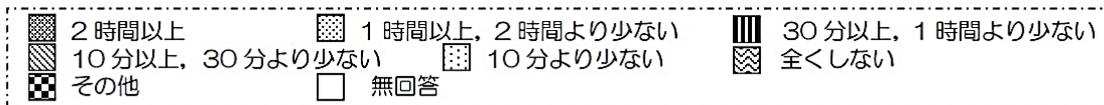
「週に1～3回程度行く」

「月に1～3回程度行く」

「年に数回程度行く」

「ほとんど、または、全く行かない」

(3)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたり30分以上読書をする」と答えた児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向

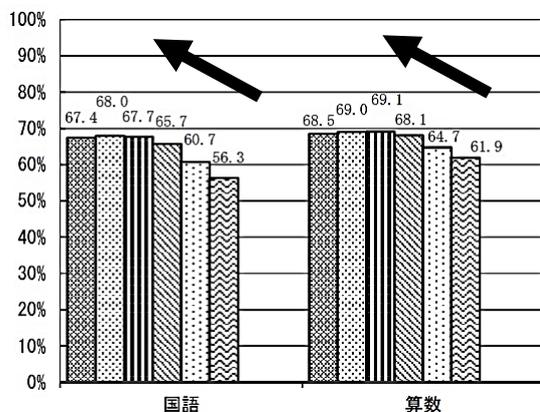
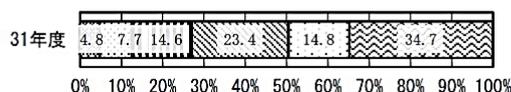


	質問番号	質問事項
小	19	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)
中	19	

【小学校】



【中学校】



「2時間以上」と答えた児童の平均正答率

「1時間以上、2時間より少ない」

「30分以上、1時間より少ない」

「10分以上、30分より少ない」

「10分より少ない」

「全くしない」

「2時間以上」と答えた児童の平均正答率

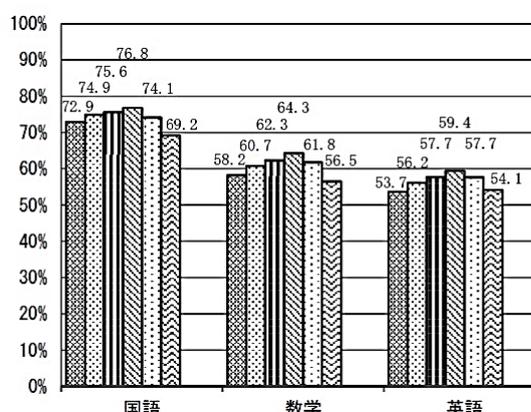
「1時間以上、2時間より少ない」

「30分以上、1時間より少ない」

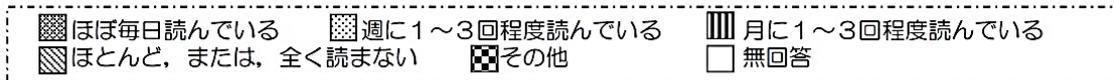
「10分以上、30分より少ない」

「10分より少ない」

「全くしない」

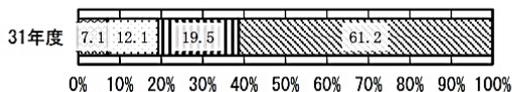


(4)「新聞を読んでいる」と答えた児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向

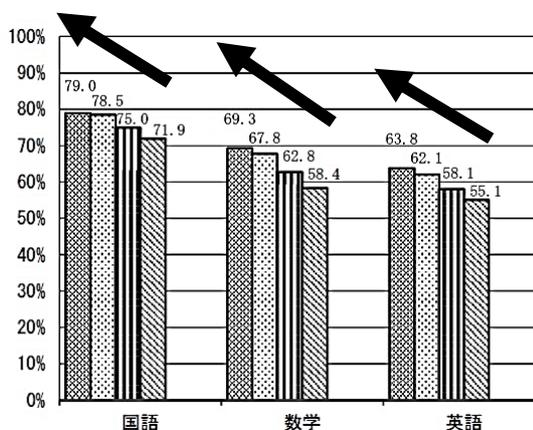
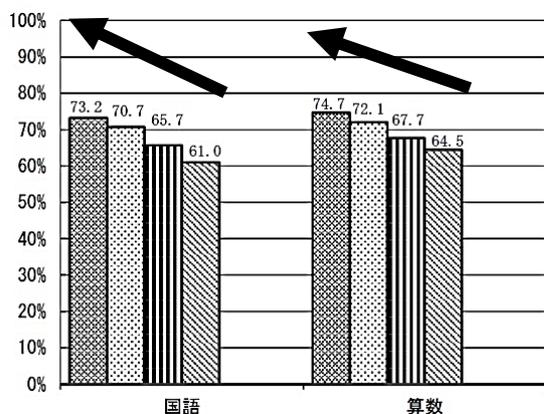
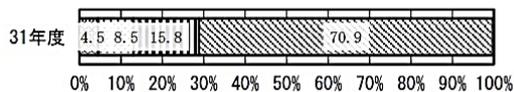


	質問番号	質問事項
小	22	新聞を読んでいますか
中	22	

【小学校】



【中学校】



「ほぼ毎日読んでいる」と答えた児童の平均正答率

「週に1〜3回程度読んでいる」

「月に1〜3回程度読んでいる」

「ほとんど、または、全く読まない」

「ほぼ毎日読んでいる」と答えた児童の平均正答率

「週に1〜3回程度読んでいる」

「月に1〜3回程度読んでいる」

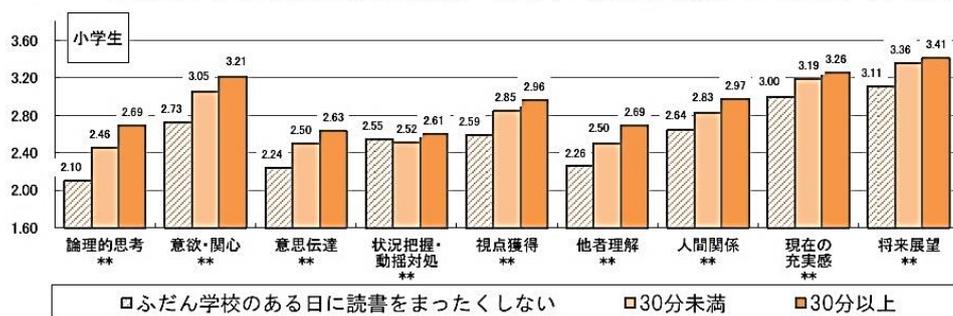
「ほとんど、または、全く読まない」

## 2. 子どもの意識・行動等と読書の関連性

以下は「子供の読書活動の推進等に関する調査研究（平成29年7月5日）<sup>2</sup>」にて公表されている分析結果となっています。

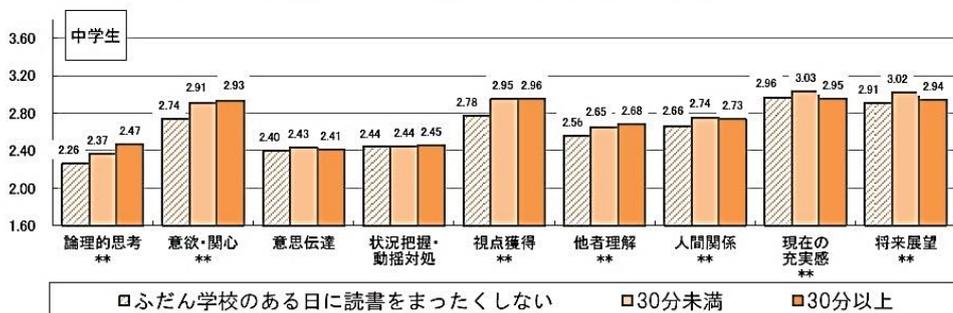
### (1) 平日の読書時間と児童生徒の意識・行動等に関連性あり

図表 5-3-2 小学生の平日の読書時間と意識・行動等に関する指標との関連性（平均値比較）



※一元配置分散分析により有意差が見られた点については意識・行動等に関する指標の名称下部に印を付した。  
（\*\*：1%水準で有意、\*：5%水準で有意、記号がついていない場合：有意差無し）

図表 5-3-3 中学生の平日の読書時間と意識・行動等に関する指標との関連性（平均値比較）

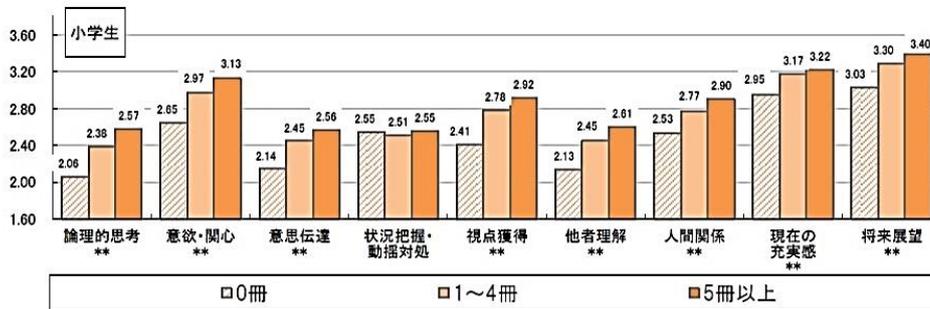


※一元配置分散分析により有意差が見られた点については意識・行動等に関する指標の名称下部に印を付した。  
（\*\*：1%水準で有意、\*：5%水準で有意、記号がついていない場合：有意差無し）

<sup>2</sup> 詳細は以下の URL からご覧ください。（<https://kodomodokusyo.go.jp/happyou/datas.html?page=3>）

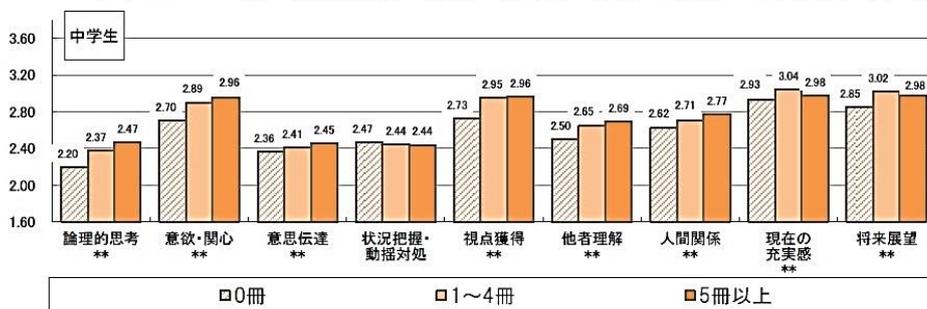
## (2)1か月の読書冊数と児童生徒の意識・行動等に関連性あり

図表 5-3-10 小学生の1か月の読書冊数と意識・行動等に関する指標との関連性（平均値比較）



※一元配置分散分析により有意差が見られた点については意識・行動等に関する指標の名称下部に印を付した。  
(\*\*: 1%水準で有意、\*: 5%水準で有意、記号がついていない場合: 有意差無し)

図表 5-3-11 中学生の1か月の読書冊数と意識・行動等に関する指標との関連性（平均値比較）



※一元配置分散分析により有意差が見られた点については意識・行動等に関する指標の名称下部に印を付した。  
(\*\*: 1%水準で有意、\*: 5%水準で有意、記号がついていない場合: 有意差無し)

なお、図表にある「論理的思考」などの具体例は以下のとおりです。

### <論理的思考>

物事を正しく考えることに自信がある  
複雑な問題について順に整理しながら考えるのが得意である

考えをまとめるのが得意である

### <意欲・関心>

わからないことはそのままにしないで調べたい  
やったことのないことにはなんでもチャレンジしてみたい  
なんでも最後までやり遂げたい

### <意思伝達>

感じていることをわかりやすく伝えることができる  
気持ちをこぼすのが得意である  
相手に自分の気持ちをきちんと伝えるのが得意である

### <状況把握・動揺対処> ※いずれも逆転項目

意外なことがあっておどろいたときにどうしたらいいかわからなくなってしまう  
何か気になることがあるときにいつもどおり行動するのが苦手である  
一度気持ちが落ち着かなくなると再び集中するのが苦手である

### <視点獲得>

だれかを注意する前に自分がその人の立場だったらと考える  
怒っている人がいたらどうして怒っているのだろうと考える  
自分のことを友だちがどのように思っているのか考える

### <他者理解>

こぼさなくても相手の伝えたいことがわかる  
相手が何を考えているかわかる  
表情から相手の気持ちを想像するのが得意である

### <人間関係>

はじめて会った人とでもすぐに話ができる  
けんかをしている友達どうしを仲直りさせることができる  
近所の人にあいさつができる

### <現在の充実感>

毎日の生活に満足している  
自分の好きなことがやれていると思う

### <将来展望>

将来は楽しいことが待っていると思う  
私には将来の目標がある  
努力すれば夢はかなうと思う

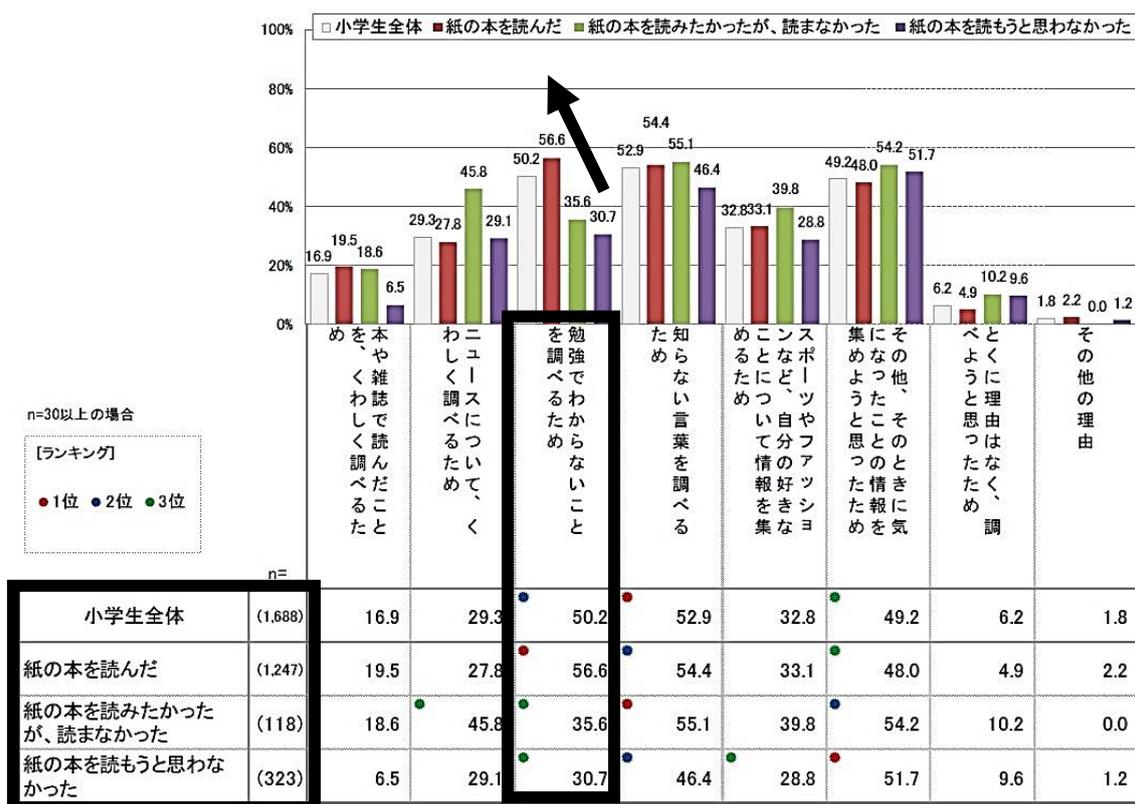
### 3. 子どもの電子メディアの使い方と読書の関連性

以下は「平成30年度『子供の読書活動推進計画に関する調査研究』報告書（令和元年5月17日）<sup>3</sup>」にて公表されている分析結果となっています。

#### (1) 紙の本で読書をした子どもは、電子メディアを使って学習する割合が多い

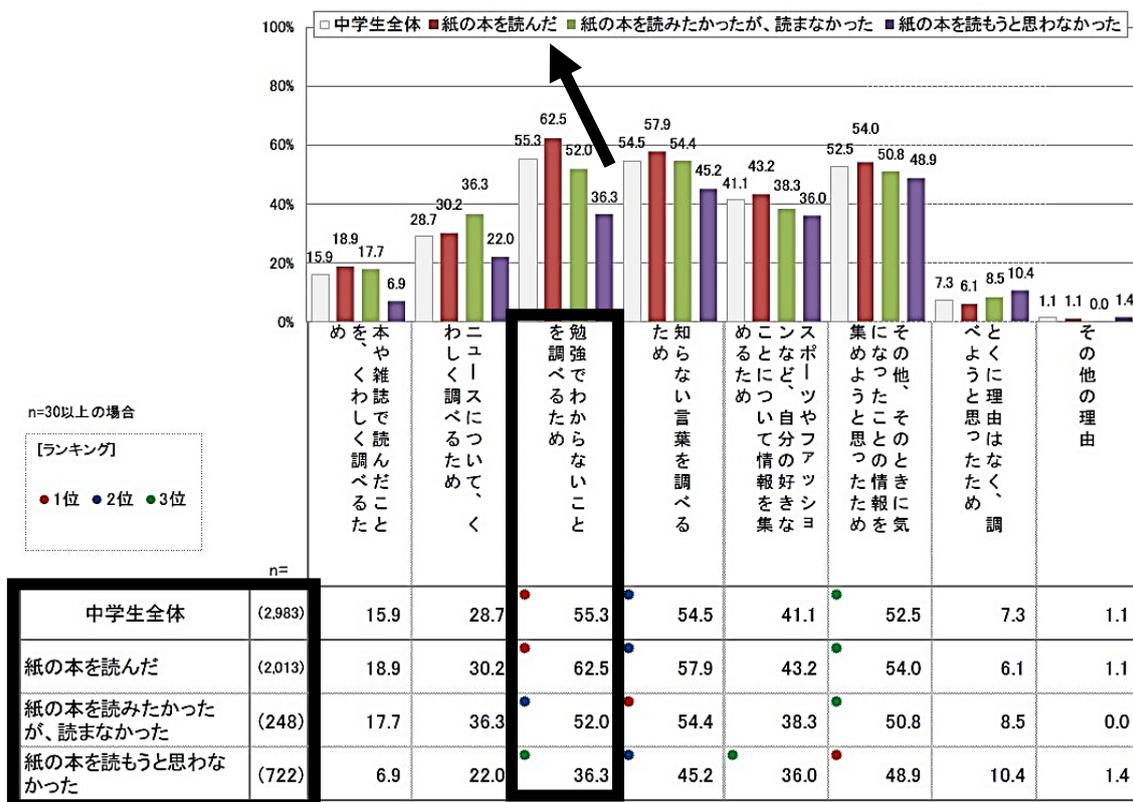
以下の図表は、「紙の本を読んだかどうか」と「電子メディアを使った情報検索・収集、学習の目的は何か」の答えを分析したものです。

赤い棒グラフ（各項目左から2番目の棒グラフ）が「紙の本を読んだ」子どものものですが、「電子メディアを使った情報検索・収集、学習の目的」で一番多かった答えが「勉強でわからないことを調べるため」となっています。またその割合は、「紙の本を読みたかったが、読まなかった」「紙の本を読もうと思わなかった」と答えた子どもと比べて、高い傾向にあります。



図表27 紙の本での読書と電子メディアを使った情報検索・収集、学習の目的の関係(小学生)<sup>14</sup>

<sup>3</sup> 詳細は以下の URL からご覧ください。(https://kodomodokusyo.go.jp/happyyou/datas.html?page=1)



図表28 紙の本での読書と電子メディアを使った情報検索・収集、学習の目的の関係(中学生)

## 4. 家庭における読書に対する理解度と子どもの読書の関連性

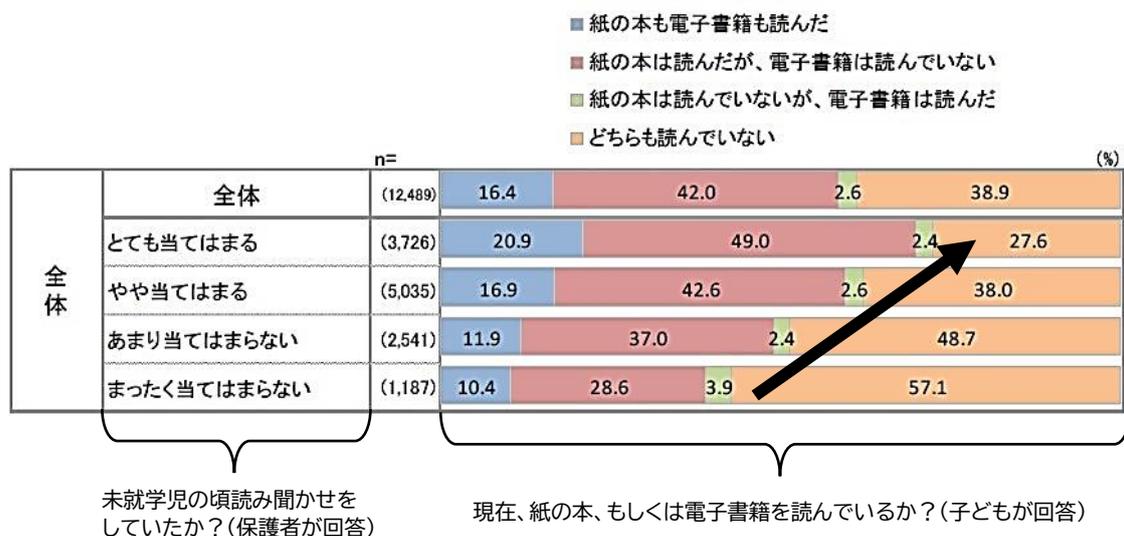
以下は「平成30年度『子供の読書活動推進計画に関する調査研究』報告書（令和元年5月17日）」にて公表されている分析結果となっています。

### (1) 未就学児の頃に読み聞かせをされていた子どもほど、読書をする傾向

以下の図表は、「未就学児の頃読み聞かせをしていたかどうか（保護者が回答）」と「現在、紙の本、もしくは電子書籍を読んでいるかどうか（子どもが回答）」の答えを分析したものです。

「未就学児の頃読み聞かせをしていた（「とても当てはまる」と答えた）」保護者の子どもは、72.3%の割合（「紙の本も電子書籍も読んだ」と「紙の本は読んだが、電子書籍は読んでいない」「紙の本は読んでいないが、電子書籍は読んだ」の合計）で読書をしていることがわかります。

一方で、「未就学児の頃読み聞かせをしていない（「まったく当てはまらない」と答えた）」保護者の子どもは、42.9%の割合（同上）で読書をしていて、未就学児の頃読み聞かせをしていた保護者の子どもと比べると、29.4ポイント低いことがわかります。



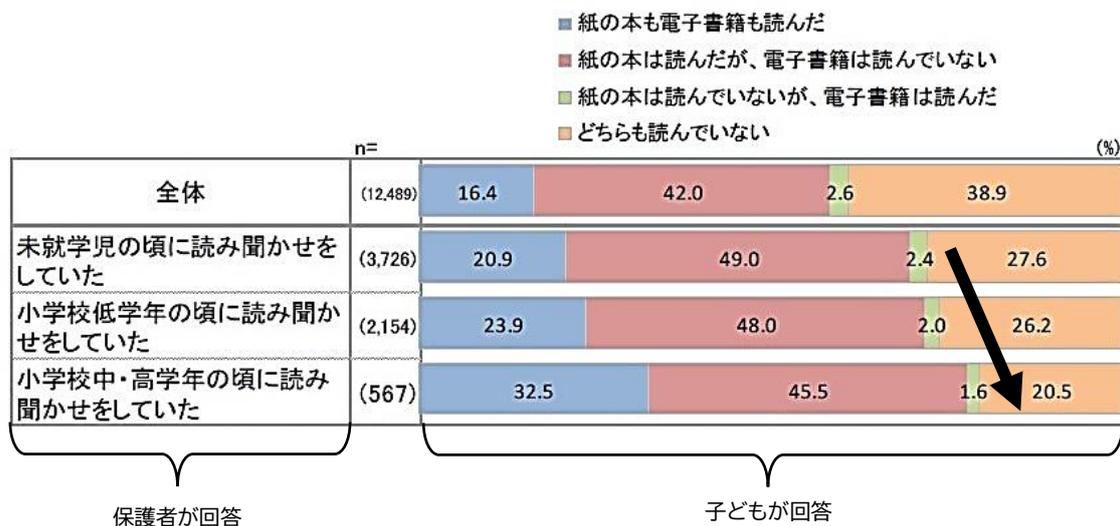
図表89 幼少期の読み聞かせからみた現在の読書実態

## (2)小学生以降に読み聞かせをされていた子どもほど、読書をする傾向

以下の図表は、「子どもがそれぞれの時期に読み聞かせをしていたかどうか（保護者が回答）」と「現在、紙の本、もしくは電子書籍を読んでいるかどうか（子どもが回答）」の答えを分析したものです。

「小学校低学年の頃に読み聞かせをしていた」保護者の子どもは、73.9%の割合（「紙の本も電子書籍も読んだ」「紙の本は読んだが、電子書籍は読んでいない」「紙の本は読んでいないが、電子書籍は読んだ」の合計）で読書をしていることがわかります。

また、「小学校中・高学年の頃に読み聞かせをしていた」保護者の子どもは、79.6%の割合（同上）で読書をしていることがわかります。「未就学児の頃に読み聞かせをしていた」保護者の子どもが読書をする割合72.3%と比べると、7.3ポイントの差があります。



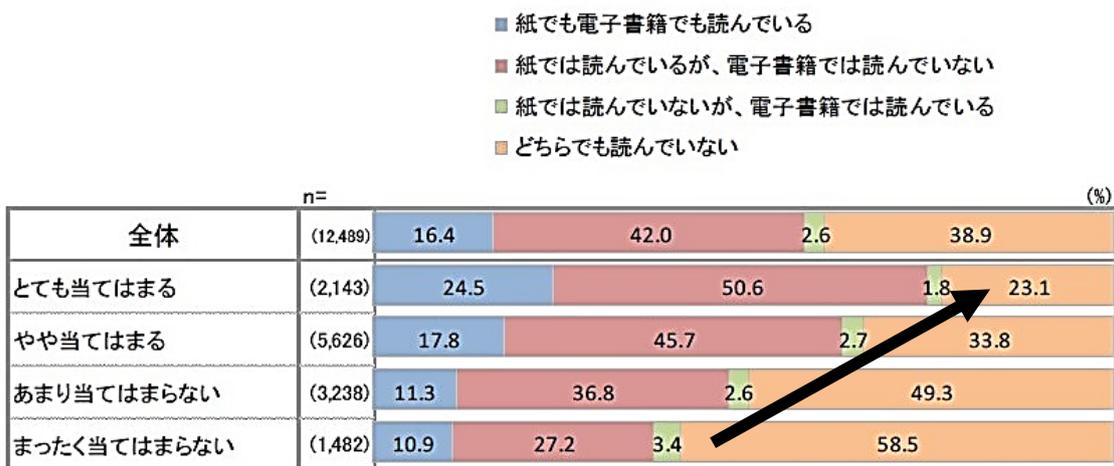
図表92 読み聞かせしていた時期でみた現在の読書実態

### (3) 小学校の頃に本を読むことを褒められた子どもほど、読書をする傾向

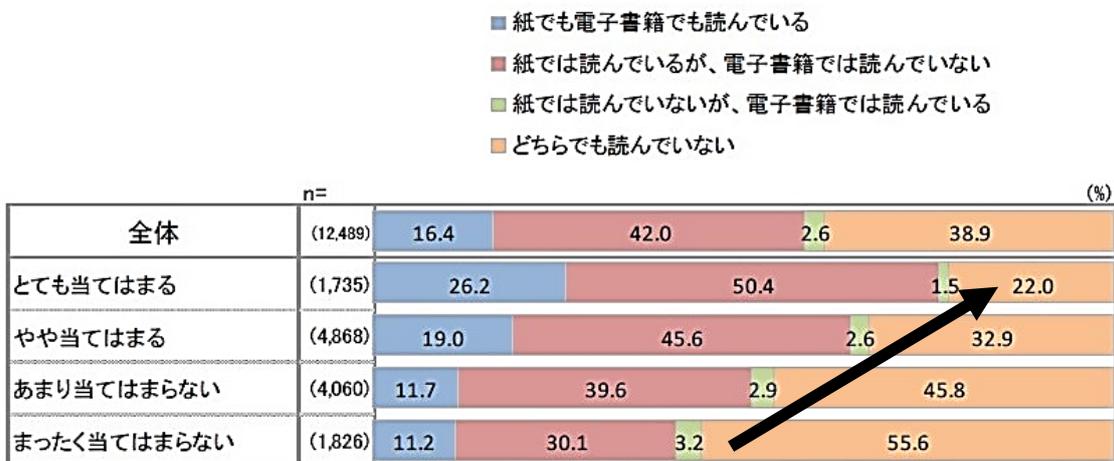
以下の図表は、「小学校の頃に本を読むことを褒められたかどうか」と「現在、紙の本、もしくは電子書籍を読んでいるかどうか」の答えを分析したものです。

「小学校低学年の頃に本を読むことを褒められた（「とても当てはまる」と答えた）」子どもは、76.9%の割合（「紙の本も電子書籍も読んだ」「紙の本は読んだが、電子書籍は読んでいない」「紙の本は読んでいないが、電子書籍は読んだ」の合計）で読書をしていることがわかります。一方、「本を読むことを褒められていない（「まったく当てはまらない」と答えた）」子どもは41.5%の割合（同上）で読書をしていて、本を読むことを褒められた子どもと比べると35.4ポイント低いことがわかります。

また、「小学校中・高学年の頃に本を読むことを褒められた（「とても当てはまる」と答えた）」子どもは、78.1%の割合（同上）で読書をしていることがわかります。一方、「本を読むことを褒められていない（「まったく当てはまらない」と答えた）」子どもは44.5%の割合（同上）で読書をしていて、本を読むことを褒められた子どもと比べると、33.6ポイント低いことがわかります。



図表93 小学校低学年の頃に本を読んだことを褒められた子供における読書実態



図表94 小学校中・高学年の頃に本を読んだことを褒められた子供における読書実態

## 4. 学校の体制と子どもの読書の関連性

以下は「子供の読書活動の推進等に関する調査研究（平成29年7月5日）」にて公表されている分析結果となっています。

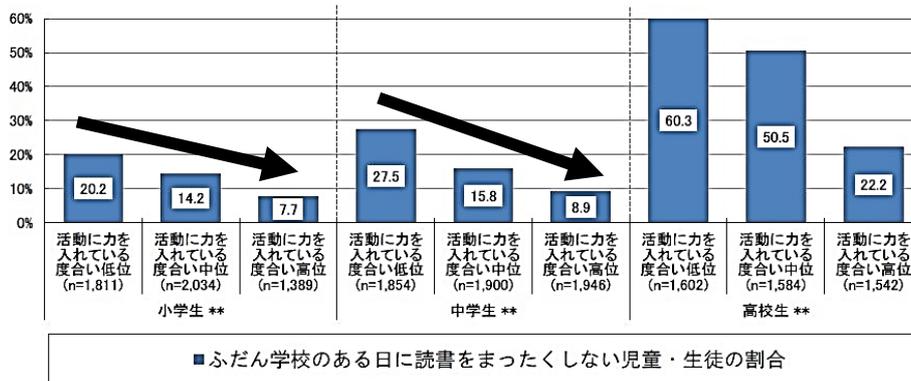
### (1) 読書に関する活動に力を入れている学校ほど、児童生徒が読書をする傾向

以下の図表は、児童生徒の認識として、「学校ではいっせい読書の時間（朝の読書）などの読書に関する活動に力を入れている」という項目に対する回答から、学校が力を入れている度合いに関する指標を作成し、その指標の水準別に小学校・中学校・高等学校のそれぞれを3群（「低位」「中位」「高位」）に分類し、学校分類別に在籍している児童生徒の読書活動の状況を比較したものです。

児童生徒がふだん学校のある日に読書を「まったくしない」と回答した割合に着目すると、小学校・中学校・高等学校ともに、読書に関する活動に力を入れている度合いが高いと考えられる学校の児童生徒のほうが、割合が低くなっていることがわかります。

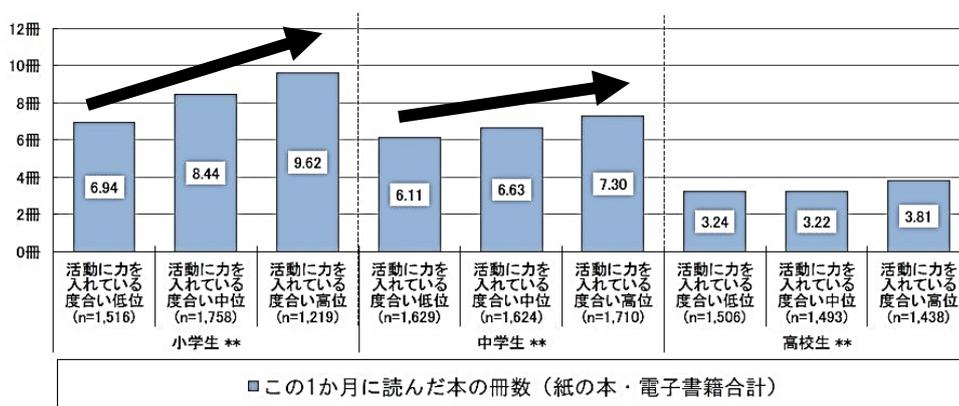
また、1か月に読んだ本の冊数についても、読書に関する活動に力を入れている度合いが高いと考えられる学校の児童生徒のほうが、平均値が高くなっていることがわかります。

図表 3-2-23 学校が読書に関する活動に力を入れている度合いに関する分類と読書習慣との関連性  
（ふだん学校のある日に読書をまったくしない児童・生徒の割合）



※カイ2乗検定で統計的に有意な関係の場合には、「小学生」「中学生」「高校生」の表記の右隣に記号を付した。（\*\*：1%水準で有意、\*：5%水準で有意、記号がついていない場合：有意差無し）

図表 3-2-24 学校が読書に関する活動に力を入れている度合いに関する分類と1か月に読んだ本の冊数との関連性（冊数平均値）



※冊数が非常に多い回答が平均値に与える影響を考慮し、30冊以上の回答は「30」として集計した。  
 ※平均値差の検定で統計的に有意な差の場合には、「小学生」「中学生」「高校生」の表記の右隣に記号を付した。（\*\*：1%水準で有意、\*：5%水準で有意、記号がない場合：有意差無し）

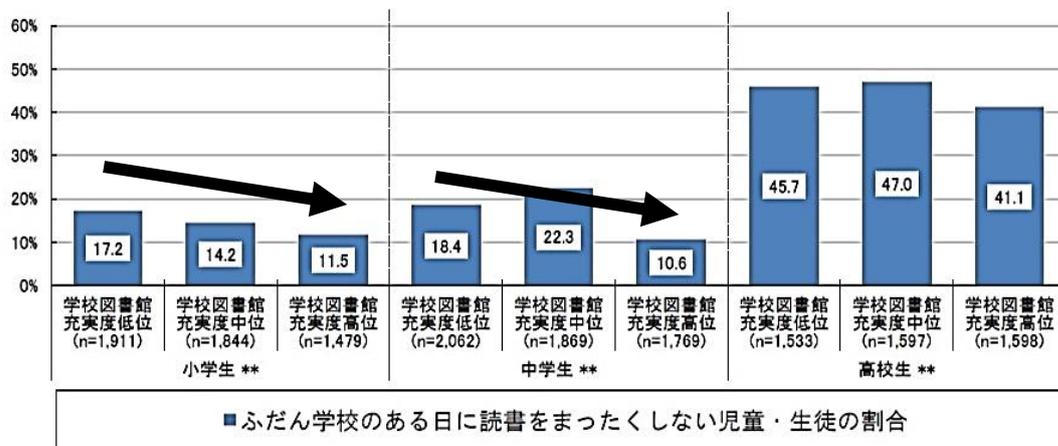
## (2) 学校図書館が充実している学校ほど、児童生徒が読書をする傾向

以下の図表は、児童生徒の学校図書館に対する認識に関し、「学校の図書館（図書室）には読みたいと思う本がある」「学校の図書館（図書室）では読みたい本が見つかるように工夫されている」「学校の図書館（図書室）は居心地がいい」の3項目から、学校図書館の充実度合いに関する指標を作成し、その指標の水準別に小学校・中学校・高等学校のそれぞれを3群（「低位」「中位」「高位」）に分類し、学校分類別に在籍している児童生徒の読書活動の状況を比較したものです。

児童生徒がふだん学校のある日に読書を「まったくしない」と回答した割合に着目すると、小学校・中学校・高等学校ともに、学校図書館の充実度合いが「高位」の学校において、特にその割合が低くなっていることがわかります。

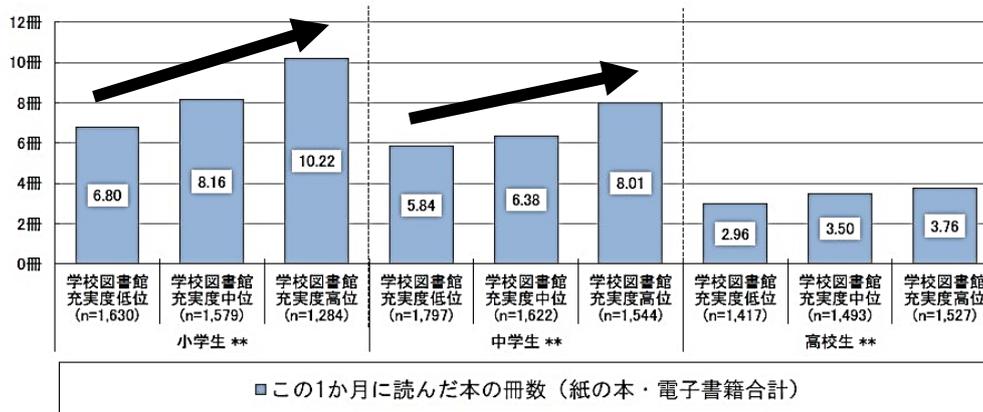
また、1か月に読んだ本の冊数についても、学校図書館の充実度合いが「高位」の学校の児童生徒のほうが、平均値が高くなっていることがわかります。

図表 3-2-14 学校図書館の充実度合いに関する分類と読書習慣との関連性  
(ふだん学校のある日に読書をまったくしない児童・生徒の割合)



※カイ 2 乗検定で統計的に有意な関係の場合には、「小学生」「中学生」「高校生」の表記の右隣に記号を付した。(\*\*：1%水準で有意、\*：5%水準で有意、記号がついていない場合：有意差無し)

図表 3-2-15 学校図書館の充実度合いに関する分類と1か月に読んだ本の冊数との関連性  
(冊数平均値)



※冊数が非常に多い回答が平均値に与える影響を考慮し、30冊以上の回答は「30」として集計した。  
※平均値差の検定で統計的に有意な差の場合には、「小学生」「中学生」「高校生」の表記の右隣に記号を付した。(\*\*：1%水準で有意、\*：5%水準で有意、記号がついていない場合：有意差無し)